

MORIYOSHI MAEDA



まえだ・もりよし ●昭和42年7月生まれ。赤坂中野字道少田在住。東西しらかわ農業協同組合勤務。趣味は読書。「日々努力」を心掛けている。

先日、中学生の息子が書き初めの宿題をしていたので、私も何十年かぶりに筆を持ってみました。しかし、息子にお手本を見せるつもりが、自分の字の下手さに拍車がかかってしまったことばかりでした。そして、「書文字」を書く機会が少なくなっていることを再認識しました。

村民【随想】リレー ①75

前田守栄さん

「書く」こと

衰えているように感じます。そして、漢字が読めても書けないというかもしれないけれど、それでもいいかもしれません。そこで、今年目標を決めました。「四十の手習い(???)」ではありませんが、人生一生勉強と思いついて「書く」ことを意識し、息子と一緒に漢字検定試験に挑戦しようと思えます。

次は、湯屋和志さん(赤坂中野字真坂)にバトンタッチ!

さがわを 彩る集い 8

地域のひとと一緒に楽しい放課後を



放課後子ども教室

村教育委員会教育課主催/参加児童54名

子どもたちが健やかに成長できる環境づくりを目的とした「放課後子ども教室」。未来を担う子どもたちを健やかに育むためには、学校や家庭、地域住民などがそれぞれの役割と責任を自覚しながら、地域全体で教育に取り組むことが求められています。

Book

図書の缶詰

図書館からおすすめの本をご紹介します
般川村図書館(村歴史民俗資料館内)
☎49-3106

ラストサムライ 山本覚馬

(鈴木由紀子著、NHK出版)
会津藩士の山本覚馬は新島八重の17歳年の離れた兄。いち早く洋式銃の導入を唱えるなど広い見識を持ち、この兄なくして八重はいなかったと言われる。失明同然となりながらも会津魂を胸に幕末維新に活躍したラストサムライである。



金子みすゞの詩の絵本 わたしと小鳥とすすと

(金子みすゞ著、金の星社)



「これまででしょうか、いいえ、だれでも」東日本大震災後、話題となった金子みすゞの詩の世界が親しみやすいキャラクターで楽しめるシリーズ5冊。あたたかくて優しい風景が広がる。

第3土曜日は 家族一緒に読書の日

俳句

よろこびの中ぐらいいなり初暦
中井 恒峯
儘ならぬ手技除染よ冬深む
松本 精一
悴みて切干大根作る妻
北條素人坂
改まり夫に熱燗年酒つぐ
前田 縫子
学生の早口会話冬の駅
山本 恵子
白鷺が愛を求めて下りて来る
小松ハルエ
寒の空一直線の飛行雲
斎須 信子
紅白の白の勝因ヨイトマケ
土電 庵
初場所や祀留都国旗を胸に秘め
黒田 寿香
娘ら帰りふたり七草粥する
鈴木 米子
一刷毛の雪もて化粧う三日朝
山本五十鈴

短歌

千粒で二か所の斑点に二等米カメ
ムシ被害の検査は厳し
鈴木イミ子
口先で政治家となる人多く国の進路の危うく無きや
前田 初
線香の煙の行方目に追えば木の間に咲ける百合の花目指す
佐藤 春枝
元旦を澄み渡りゆく山の端に声高に鳴く雉子の一羽は
須藤 幸子
春という覚えはなくも引き締まる寒さに逢えば心新たなり
水野 珠子
何事も初めと思う心地こそ仕事の成就に繋がるや今
関根 瑞恵

穏やかな小春日和を迎えおり毛糸編みする小縁に出でて
満井 清乃
正月も休めず葉たばこ伸したる昔を思う嫁の勤めに
坂本 伊紀
なるが儘こころの儘に生き続け米寿の今日も恙なきかな
一 平子
初日受け迷いすつきり前向きに家族と共に心機一転
石井 幸子
年の明け輝く初日に膨らみぬ希望の願い迷はず託す
須藤シツエ
師走運一億二千どこへ行く津波に乗れば船をも山へ
松本 一郎
二重橋渡る参賀の人の波陸下のお言葉全身に戴く
前田喜三子
九十歳すぎたる姉は病む身にて八十路の吾を気遣いくれる
藤田千代子
元気でね手をさしのべて握手する曾の温もり今も残れる
関根ハナヨ
お飾りの済ませ今年暮明けと初日を迎え希望の願えを
関根 富久
晴れ渡る新年の空輝きて長寿の願い吸い取る如くに
鷺野谷 満
初鏡りの大間のまぐるより鯛ふところの良く吾をも癒す
板橋 源良
輝かに登る初日に手を合やす帰省せし娘と二人並びて
関根キヌ子
久方に熱鍋囲みし芋煮会笑顔の絆健康の喜び
矢吹 一二
寿ぎの門松凜と天を指し輝く初陽に復興願う
北條 平

若者の広場 No.98

Young Plaza

芳賀 鉄央さん

■今、夢中になっていることは何ですか？

休みの日は、DVD鑑賞をして過ごすことが多いです。ほぼ毎週ですね。洋画から邦画まで、いろいろなジャンルのものを見ます。

■これから新たにやってみたいことや目標はありますか？

新しい車を買うために、今から少しずつ貯金をしようと思います。

■村に住んでいて感じることや現在の村について思うことはありますか？

鮫川村は土地が広いあるので、これを有効活用

して何かできないのかなと思います。あとは、同級生など若い人が村を出てしまうので寂しいと感じます。

■これからの鮫川村に望むことはありますか？

村内の道路は、交通量が少ないので運転しやすいですが、道幅が狭かったり、舗装がデコボコだったりする所もあるので直してほしいです。雪が降っても安心して運転できる道路になればと思います。

次は矢吹雄太さん（赤坂中野字宿ノ入在住）の予定です。

あるものを有効活用して…



はが・てつおう
平成4年1月22日生まれ 21歳
B型 みずがめ座
趣味はDVD鑑賞
赤坂東野字宿ノ入在住

最後は、お互いの作品を見合っただけの感想発表。「一年生の硬筆の字がしっかりしていて、びっくりしました」「六年生の字は、とても力強くかっこいいです」など、よいところを学び合いました。

一月十日（木）、全校生での「書き初め大会」を実施しました。開会式



書き初め大会

一画一画集中したよ！
「書き初め大会」

学校だより

(100)

青生野小学校編



上：Cooking 教室/右：クッキーで作ったお菓子ハウス

十二月十三日（木）、外国語活動の中でALT（語学指導助手）のティファニー先生と英語を使いながら、楽しくCookingをしました。クリスマスが近かったため、星形クッキーを重ねてツリーを作ったり、クッキーでお菓子ハウスを作ったり、子どもたちは大興奮。満足いく出来栄に、ティファニー先生も子どもたちも笑顔のひとときでした。



（文・写真／青生野小学校）

昔、葉たばこ作りで使っていたという納屋には、凍み餅がずらりと吊るされています



冬の寒さが厳しい時期になると、昔はほとんどの家庭で作られていたという凍み餅。現在では、「手まめ館」で購入することが出来ます。その生産者の一人が関根のぶ子さんです。「私が子どものころは、母親と一緒に凍み餅を吊るしたものです。食べるときは、水で戻さずカリカリとかじっていたのを覚えてます」

凍み餅の作り方や分量は人によって多少異なりますが、共通して気を付けなければならぬ点が二つあるといいます。一つ目は、あく抜きした「ゴボツ葉」とうるち粉を混ぜ合わせるときやもち米と一緒につくるときによく混ぜ合わせる。よく混ぜていないと、水で戻したときに餅が崩れる原因となります。二つ目は、餅を凍らせるときに

気温が低く風がない日を選ぶこと。風が当たるとヒビが入り、気温が低くないと中まで凍らず戻りが悪くなってしまう。「凍み餅を作っていると、昔の人の知恵に感心させられます。山に生えている『ゴボツ葉』が食べられるなんて、よく考えましたよね。伝統ある郷土食を絶やしたくないです」と力強く話してくれました。

むらの名人・達人 Vol.7

凍み餅作り名人
関根のぶ子さん
せきね・のぶこ／西山字余所内住／61歳



つき上がった餅を手際よく成形していきます

昔の人の知恵に感心
伝統ある郷土食を絶やしたくない